

協同の発見

きょうどうのはっけん

第288号 2016.11



特集

共に生きる新しい「学びの共同体」づくり ～沖縄の実践から～

- ◎沖縄大学「ワーカーズ・コープ論」寄附講座の2年目の試み－インターンシップを体験して－ 島袋 隆志
- ◎沖縄の社会課題の解決とキャリア教育の展開－沖縄国際大学を事例として－ 村上 了太
- ◎沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」寄附講座 開催報告
～人・地域・社会・働くことと自己をつなげる契機に～ 相良 孝雄
- ◎沖縄連帯基金の活動、1年間を捉えて 飯沼 潤子

協同の広場

- ◎いのち薫る滋賀の地から協同労働の息吹を～協同集会2017キックオフ～ 酒井 厚行
- ◎公開討論会 激論！これまでの日本、そしてこれからの日本を考える
(2016年8月5日、一般社団法人日本フロンティア・ネットワーク主催) 編集：岩城 由紀子

書籍紹介

沖縄の自己決定権 その歴史的根拠と近未来の展望
(編著者 琉球新報社・新垣毅 発行所 高文研) 相良 孝雄

巻頭言

まち
地域をつくる新しい学びの共同体を 藤田 徹

■ 巻頭言

地域まちをつくる新しい学びの共同体を

..... 藤田 徹(センター事業団理事長/会員) 2

■ 特集

共に生きる新しい「学びの共同体」づくり～沖縄の実践から～

・リード文

..... 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長) 4

・沖縄大学「ワーカーズ・コープ論」寄附講座の2年目の試み
ーインターンシップを体験してー

..... 島袋 隆志(沖縄大学准教授) 6

(別紙資料：放課後等デイサービス「かなさ」の組合員感想と、事業所の目標)

・沖縄の社会課題の解決とキャリア教育の展開ー沖縄国際大学を事例としてー

..... 村上 了太(沖縄国際大学教授/会員) 14

・沖縄国際大学「ワーカーズコープ論」寄附講座 開催報告
～人・地域・社会・働くことと自己をつなげる契機に～

..... 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長) 25

・沖縄連帯基金の活動、1年間を捉えて

..... 飯沼 潤子(一般社団法人日本社会連帯機構 事務局/会員) 42

■ 協同の広場

・いのち薫る滋賀の地から協同労働の息吹を～協同集会2017キックオフ～

..... 酒井 厚行(センター事業団関西事業本部本部長/会員) 54

・公開討論会 激論！これまでの日本、そしてこれからの日本を考える

62

(2016年8月5日、一般社団法人日本フロンティア・ネットワーク主催)

編集：岩城 由紀子(協同総合研究所 事務局)

■ 書籍紹介

沖縄の自己決定権 その歴史的根拠と近未来の展望

(編著者 琉球新報社・新垣毅、発行所：株式会社 高文研)

..... 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長) 83

■ 労協連だより..... 田嶋 康利 87

■ 研究所だより..... 上平 康利 90

巻頭言

まち 地域をつくる新しい学びの共同体を

藤田 徹(センター事業団理事長/会員)

— 2016沖縄での寄附講座 —

今夏、昨年の沖縄大学に加え、沖縄国際大学での寄附講座(「ワーカーズコープ論」)が実施された。

昨年同様、協同労働という新しい働き方について初めて見聞きする多くの学生が新鮮な驚きをもって受け止めてくれた。

また各大学とも少子化の中、学生の就職先や就職率が受験者数の増減と大学経営に直結する現実もあり、就職支援にも相当力を入れているようだった。

現地で話を伺って驚いたことは、大学によっては入学者の3割近くが中途退学し、残った卒業生の2～3割が就職できずに無業者になり、就職する学生の4～5割が県外の人に就職しているといった耳を疑うような現実だった。

そこから見えることは、「学ぶこと」や「働くこと」の意味についてもがいている学生の姿であり、何よりも働く場そのものが圧倒的に不足している沖縄の置かれた厳しい雇用の現実だった。

そういった現状を知れば知るほど、米軍

基地削減の運動と同時に本土や外国の大資本による雇用創出ではなく、沖縄県民自身による仕事おこし、まちづくりの大運動が必要なのではないかという想いを強くした。

こういった状況をうけ、ワーカーズコープが母体となってつくった日本社会連帯機構では、来年度現行の沖縄連帯基金を発展させ、沖縄での仕事おこし運動を拡げることを中心テーマとして「沖縄連帯基金一億円運動」(仮称)を沖縄や全国の市民に向け展開していくことを方針化した。

学生ワーカーズコープの設立も含め、社会連帯と協同労働による仕事おこし・まちづくりへの挑戦が今始まろうとしている。

— 地域を捨てる教育から地域を創る教育へ —

話は変わるが、先日長野県泰阜村にあるグリーンウッドというNPO法人を訪問した。グリーンウッドは山村留学を希望する都会の子供たちを受け入れ今年で30周年をむかえた団体だ。これまでに600人もの子どもたちを受け入れてきた。

厳しい自然とともに生きる力、村の歴史

や文化から学ぶくらしの知恵、仲間ととことん話し合い相手の想いを理解し協同していく力などを身につける。

私たちが訪問した日も小学生たちが朝食を用意してくれたり、寒い冬に備えて集めた薪を使って五右衛門風呂を沸かししたりといった日常風景が見られた。

彼らが言うには昔の泰阜村の人々は都会に出ていかないと豊かな生活は送れないと考え子どもたちに「村を捨てる教育」を一生懸命すすめていたそうだ。その結果、過疎化が進み、村も衰退していった。

今、泰阜村はこういった過去の反省に立

ち「村をつくる教育」に大きく転換し始めている。その先導役を30年前から実践してきた団体がグリーンウッドだった。

私はこれらの話とグリーンウッドで暮らすたくましくも心優しい子どもたちの姿に触れ、地域をつくる子育てや、地域をつくる学びこそこれからの社会にとって必要になってくるという確信を深めた。

沖縄の学生の学びが島の再生につながり、全国の協同労働運動の発展が沖縄と全国の若者の希望のベースを形作っていく。

年の瀬を前にそんな夢をふくらませている。

— 追伸 —

この原稿を投稿した数日後、アメリカ大統領選が実施され、ドナルド・トランプ氏が第45代アメリカ大統領に選出された。各種世論調査や大手メディアの予測に反した大番狂わせの結果に、全世界にトランプショックが広がっている。トランプ氏が当選した背景にこれまで政策を推進してきたエリート層への反発と不信、格差拡大への不満、大衆迎合主義(ポピュリズム)などがあると言われている。確かにグローバリゼーションや市場開放を極端に進めてきた結果、市民や労働者の生活はますます貧しくなり、富裕層はますます豊かになっていくという現象が生まれ、その不満が極限に達した結果だともいえよう。

重要なことはこれがアメリカだけの傾向ではなく日本やヨーロッパなど先進国共通の現象になり始めているということだ。したがって移民や難民の排斥や自国第一主義といっ

た内向きの政策が支持され、そういった社会の分断を声高に叫ぶ極右勢力が台頭しつつある。

資本主義の終焉が世界の多くの識者から語られ始めている。植民地や途上国など新たなフロンティアの減少と喪失による収奪力の低下、国家を超える規模の多国籍企業が世界を支配しつつある現状の矛盾と限界も広がっている。

こういった社会情勢の変化を前に「共に生きる新しい学びの共同体づくり」という今回のテーマは、資本主義と自国第一主義を超える新たな時代の共同体づくりというテーマと深くつながっている。

米大統領選の結果は我々に何を問いかけているのか、この機会にまずは一人ひとりが考え、みんなで話し合ってみたらどうだろうか。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合(ワーカーズコープ)への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。